

開設時から良質な慢性期医療の提供に努め ロボットリハでの新たな挑戦を開始

平成医療福祉グループ



■ロボットリハチーム

平成医療福祉グループは近年注目されているロボット機器を導入したリハビリに力を入れている。なかでも東浦平成病院、博愛記念病院、印西総合病院は先駆的に歩行や基本動作の練習にロボット機器を活用。今回、身体機能に障害を抱える方におこなうロボットリハの実践について話を聞いた。



■HAL福祉用下肢タイプとHonda歩行アシストによる歩行訓練

同グループでは現在、全25病院中18病院で、自立歩行動作を支援する「ロボットスーツHAL福祉用下肢タイプ」、歩行訓練機器「ホンダ歩行アシスト」のいずれかを導入（うち両方導入は8病院）。脳梗塞による下肢の麻痺など身体障害を抱えた患者に対し、ロボットリハを積極的に実施して

**「絶対に見捨てない」を实践
専門チームを結成し**



理事長

武久 洋三

たけひさ・ようそう／平成医療福祉グループ代表。日本慢性期医療協会会長。リハビリテーションの重要性、特に摂食嚥下リハ、排泄リハの重要性を広く発信すると共に、ロボットなど最新リハ機器の活用も推奨している。



ロボットリハチーム
サプリーター
(印西総合病院)
前田 浩太郎



ロボットリハチーム
サプリーター
(博愛記念病院)
大寺 誠

「絶対に見捨てない」が我々の信条です」と話す。HALは主に自力で立位、歩行ができない患者の身体機能の改善を促進する

グループ内の各病院には嚥下、排泄、離床などのチームがあるが、ロボットリハについても専門のチームを結成。チームの國廣澄仁リーダーは「それぞれの患者さんの状態に応じたプログラムを提案し、医師やセラピストが一丸となってサポートします。少しでも早く離床して体を動かすことが大切と考えており、ロボットはそのための手段であり、『絶対に見捨てない』が我々の信条です」と話す。

いる。



ロボットリハチームリーダー
(東浦平成病院)
國廣 澄仁

「HALを装着して、動かなかった部位が少しでも動くようになる」と、患者さんは驚かれて、もっと頑張ろうとリハビリへのモチベーションが上がることが多いです（ロボットリハチームの大寺誠サプリーター）。

各院のロボットリハ担当者、稼働状況、どんな課題が見つかり、どう対処したかなどを話し合うテレビ会議を毎月実施しているのも特徴だ。知識や経験がグループ内で蓄積、共有され、互いの運用連携がしかりとなされていることが、先進機器を使いこなす、患者の意欲と笑顔を引き出す大きな原動力になっている。

グループ内で連携し、課題や解決策などの情報を共有

導入から2年以上が経

平成医療福祉グループ ロボットリハ導入病院 一覧

東京都			兵庫県		
世田谷記念病院		○	東浦平成病院	○	○
多摩川病院	○	○	平成病院		○
緑成会病院	○	○	西宮回生病院		○
平成扇病院		○	神戸平成病院		○
千葉県			徳島県		
印西総合病院	○	○	博愛記念病院	○	○
神奈川県			江藤病院		○
平成横浜病院	○	○	徳島平成病院		○
大阪府			山口県		
豊中平成病院	○	○	山口平成病院		○
浜寺中央病院		○			
岸和田平成病院	○	○			
泉佐野優人会病院		○			

○・・・HAL ○・・・アシスト

くわしくはグループホームページへ ▶ <http://hmw.gr.jp/>

平成医療福祉グループ

検索